

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書【コロナ対応版】

制作団体名	公益財団法人 片山家能楽・京舞保存財団
公演団体名	公益財団法人 片山家能楽・京舞保存財団

内容	
本来なら、別日程でワークショップを行うが、それが叶わない場合は、本公演当日に下記のような内容で実施する。	
仕舞（しまい）の鑑賞	本公演で演じられるものの一部分を出演能楽師が舞い、謡うという仕舞を鑑賞していただきます。
謡（うたい）の体験	本公演で演じられる「舍利」の謡の一部分を体験していただきます。スクリーンに謡の詞章を映し、能楽師が指導します。謡を実際に口ずさむことで、本公演の時の謡がよく聞き取れるようになります。 最後は児童・生徒の謡に合わせて能楽師が舞うということを行います。

タイムスケジュール（標準）
本公演の際に、下記の内容のワークショップを入れる。
仕舞の鑑賞 5分
謡の体験 15分 計20分

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください
指導者4名

学校における事前指導
可能であれば、能楽に関する本やインターネットなどを使って、先生と児童生徒ともに事前学習をしておいてください。

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

本公演実施計画書【コロナ対応版】

制作団体名	公益財団法人 片山家能楽・京舞保存財団
公演団体名	公益財団法人 片山家能楽・京舞保存財団

演目
① 絵本語り 「舍利（しゃり）」 ② ワークショップ ③ 能 「舍利（しゃり）」

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください
合計25名（出演者17名、スタッフ8名）

タイムスケジュール（標準）								
8	9	10	11	12	13	14	15	17
	到着・設営		リハーサル・昼食		開場	公演 <small>（途中ワークショップ）</small>	終演 撤去 搬出	退館

実施校への協力依頼人員
2名程度。 電源の説明、学校の音響設備の準備、控室の確保、暖房設備の準備（秋・冬期）などをお願いいたします。

演目解説

① 絵本語り「舎利」

能のお話を絵本にした「舎利～韋駄天と足疾鬼」(文：片山清司、絵：小田切恵子)の絵を紙芝居のようにスクリーンに映し出し、絵本の朗読をいたします。お話の内容がよくわかるので、後で本物の能をみていただく際にこの絵本語りも、鑑賞の大きな手引きとなります。

② ワークショップ

本来であれば、能楽師の指導にて、児童・生徒が別日程のワークショップでお稽古した謡と仕舞を舞台上で披露してもらうのですが、別日程でワークショップができない場合、本公演の時間を使ってワークショップを行います。

③ 能「舎利」

作 者： 不明(従来は世阿弥とされていた)

素 材： 『太平記』巻八「谷堂炎上の事」

登場人物： 前シテ 里人
後シテ 足疾鬼
ツレ 韋駄天
ワキ 旅僧
アイ 泉涌寺の舎利堂守

場 所： 京都、泉涌寺(現・京都市東山区今熊野)

京都、泉涌寺を舞台に仏舎利を盗んで逃げる足の速い鬼・足疾鬼(そくしっき)とそれを追いかける泉涌寺の守護神・韋駄天(いだてん)のお話です。天空を自在に翔けめぐり、息もつかせぬ両者の攻防が見ものです。壮大な古典ファンタジーをお楽しみいただきます。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

本来であれば、当日の公演の時に、児童生徒が舞台上で謡、仕舞の発表をいたします。別日程でのワークショップのお稽古に始まり、自分たちで公演までの期間にお稽古をして、公演当日の発表を経て、そして本物の舞台をみるということで、単なる舞台鑑賞ではなく舞台と一体となった参加意識が高まるような一連のプログラムとなっているのですが、それが叶わないので、本公演の時にワークショップの時間を取り、謡(うたい)の体験をすることにより、舞台上の能楽師と同じように公演に参加しているような気分を味わってまいります。

児童生徒とのふれあい

終演後、質問の時間を設け、出演の能楽師が直接、児童生徒の疑問に答えます。